


成 果 報 告 書

1 大学等名	広島経済大学	
2 教育研究活動	区分	②ICT 環境の整備・有効活用
	テーマ	デジタルデバインド対策を通じた高齢者と若者の交流機会の促進 ーコロナ禍後における高齢者向け携帯アプリ活用講座
3 連携した市町	五月が丘公民館（広島市佐伯区）、安東公民館（広島市安佐南区）、皆賀公民館（広島市佐伯区）、沼田老人憩いの家（広島市安佐南区）	
4 連携した企業、団体等	安佐南区社会福祉協議会・講師支援（森方真由美）	
5 参加学生	経営学部経営学科 3 回生（8 名） 経営学部経営学科 2 回生（3 名）	
6 活動の内容	<p>【2023 年】</p> <p>5 月 10 日：公民館・顔合わせ及び打ち合わせ（五月が丘公民館）</p> <p>7 月 3 日：打ち合わせ・内容修正</p> <p>9 月 11 日：講師との打ち合わせ及びリハーサル</p> <p>9 月 14 日：スマホ講座 講習会開催（五月が丘公民館）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スマホの基礎機能と LINE の基礎機能を 2 時間程度の講義形式で、午前の部と午後の部の二回に分けて実施。</li> </ul>  <p>9/14 講座風景（五月が丘公民館）</p> <p>10 月 11 日：公民館・顔合わせ及び打ち合わせ（安東公民館）</p> <p>11 月 9 日：公民館・顔合わせ及び打ち合わせ（皆賀公民館）</p> <p>11 月 22 日：講師との打ち合わせ及びリハーサル</p> <p>12 月 9 日：スマホ講座 講習会開催（安東公民館）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スマホの基礎機能と LINE の基礎機能を 2 時間程度の講義形式で、午前の部と午後の部の二回に分けて実施。</li> </ul>	



【2024年】

1月10日：講師との打ち合わせ及びリハーサル

1月13日：スマホ講座 講習会開催（皆賀公民館）

・スマホの基礎機能とLINEの基礎機能を2時間程度の講義形式で、午前との部と午後の部の二回に分けて行った。



2月5日：スマホ講座 講習会開催（沼田老人憩いの家）

2月9日：広島広域都市圏協議会での報告会

7 活動効果

本事業では、多くの申込みを頂き、高齢者のデジタルに対する関心の高さを知ることができた。また、本活動において外出の機会が減っている高齢者を対象にスマホを通して学生が高齢者との交流の機会をつくり、コロナ禍後の生活スタイルに応じたデジタル推進に向けた活動を行うとともに、スマホ講座を通じて高齢者と若者の交流機会の促進を図ることができた。

<アンケート調査結果から得たこと>

- ・高齢者と若者の交流機会や交流場所が少ないことが分かった。
- ・高齢者はスマホに備わっている標準機能やLINEの使い方の基礎など、初歩的なことも分かっていない人が多く、近くに教えてくれる人も少ないといった声が多かった。
- ・若者と高齢者でのデジタル格差を実感した。
- ・高齢者に向けたスマホ講座に対するニーズが非常に高いことが分かった。

<活動の成果>

- ・スマホ講座の予約が比較的早い段階で埋まっていたことから、一定以上の需要があることが判明した。

- ・スマホ講座後のアンケート調査の結果から、高齢者を対象としたスマホ講座の開催を望む声を多数頂いた。
- ・若者と高齢者との交流機会の場を設けることができ、アンケート結果において満足度も高い結果となった。
- ・社会に出て必要とされるプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を向上させることができた。
- ・若者と高齢者の間にデジタル格差があることを改めて実感した。

<得た課題>

- ・実際に高齢者と話す中で、デジタル化について不安を抱いている人がいることが分かった。
- ・高齢者の周りにスマートフォンの使い方を教えてくれる人は少ないことが分かった。
- ・高齢者は想定していたよりもスマホを使える人が少なく、デジタル格差が深刻なものであると分かった。
- ・スマホ講座は受講者1人につき学生1人がサポートする形が理想的であり、受講者2~3人に対して1人の学生サポートでは、講義形式に沿って教えていくことが困難であった（支援体制の課題）。